

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000031
法人名	社会福祉法人 朱鳥会
事業所名	グループホーム かしの木
所在地	奈良県香芝市良福寺 37-3
自己評価作成日	平成23年9月22日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成23年10月20日
評価結果決定日	平成23年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれた緑豊かな自然の中にあり、ホームの玄関より見える二上山が美しいとご利用者に喜ばれている。グループホームかしの木は2ユニット横並びになっているため、ご利用者同士の交流があり、気の合うご利用者同士で行き来ができる。日常生活では、炊事・洗濯・掃除等スタッフと共に行き、気分転換を図るためにも、散歩やレクリエーション・季節に応じた行事・月1回の日帰り旅行など、ご利用者に生き生きとした生活が提供できるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄り駅から徒歩での訪問も可能な自然豊かなホームです。平屋作りの18名定員で、入居者同士の交流が図りやすい室内環境となっています。また、日々の支援にも細やかな配慮が見られ、居室にこもらない様に声かけをしたり、外出支援にも積極的に取り組んでいます。生活面では、排泄の自立に向けた積極的な取り組みなども実践しています。それぞれの入居者がゆったりとしたペースで生活されており、その人に見合った個別の役割を用意するなど、日々の生きがい作りにも努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

ユニット名 (かしの木1丁目)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員会議の際に作成し、事務所に掲示して目に触れるように配慮している	ホーム全体の理念に加え、各ユニットごとの理念(目標)があります。日々の支援の中で常に理念を意識し、その目標が達成できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、あまり出来ていないが、事業所の菜園を通じて、隣の畑をされておられる地域の方とのお付き合いから少しずつ行っている	近くの保育所との交流や地域ボランティアの受け入れ、また自治会長にかけ合い、お祭りの山車にホーム前まで来てもらう等、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の民生委員の方々に見学をして頂き、認知症の人の理解等をして頂けるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席頂いた方々に、意見・意向等を聞き、サービス向上に活かしている	家族代表者、協力医療機関、市の高齢福祉担当職員等の参加のもと、2ヶ月に一度開催しています。会議では、ホームからの報告や参加者からの意見聴取などを行い、今後は防災対応についての話し合いも予定しています。	より多くの家族や地域住民を交えた会議に発展することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隣接している同法人のケアハウスからの関係を基盤に、協力関係を築いている	同法人のケアハウスからの関係や、市からの依頼で緊急的に利用者を受け入れる事も多々ある為、常に相談できるような関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っているが、玄関の施錠に関しては、今後開錠する方向で考えている	職員間で資料に目を通したり、勉強会を行っています。玄関の扉・テラスへの扉等は安全面から施錠しています。	開設一年が経ち職員も業務に慣れ、入居者も落ち着いて来られているため、可能な短時間からでも少しずつ開錠出来るような取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を会議の中で行い、職員間で見過ごされないよう注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、年2回の認知症実践者研修に受講し、制度の理解を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度傾聴し、対応している	家族来訪時に常に声かけを行い、家族が意見や要望を話しやすいような関係作りに努めています。	気軽に投書出来るような意見箱等があれば、直接話しにくい内容なども表出しやすくなるのではないのでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談の実施など、定期的な話し合いの場を設け、反映させている	毎月開催の職員会議・リーダー会議の場だけでなく、常に意見を言いやすいように職員との関係作りに配慮しています。実際に、職員からの意見等も多く、また年に一度、管理者との個別面談の機会も用意されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員会議や個別面談の中で努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修等を受講し、職員会議で発表をしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良県老人福祉施設協議会のグループホーム連絡会や、認知症実践者研修を受講し、同業者との交流をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを図りながら、少しでも傾聴できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時または、アセスメント時に話しを傾聴し、利用者本人のサービスに繋げ、信頼関係ができるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討中		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識はあるが、不十分で関係ができていない面がある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や状態等を、毎月のかしの木新聞等に同封し、お伝えしている。又、面会もお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今後の課題のひとつとなっている	知人が面会に来られる入居者もおられます。自宅等への外出や外泊も制限はなく、出来る限り希望に沿えるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけトラブルをさげ、気の合う利用者同士が関係をもてるよう座席等配慮している。一部の入居者同士は、居室を歩き来して話していることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方に関しては、担当ケアマネより状況を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めているが、十分ではない。もっと意識して、ケアしていく必要がある。	日頃より入居者の声に耳を傾け、得られた要望に添えるよう努めています。また、入居者と職員が居室で1対1で話ができるような配慮も見られます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネ及び家族より、情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一部センター方式を利用しながら、一人ひとりの日々のリズムを把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在できる範囲で取り組み、計画を作成している	職員会議で話し合い、各職員からの意見を反映しながら、担当ケアマネジャーが作成しています。	介護計画書はその人らしく生活出来るように作成されていますが、計画時に家族からの要望や意見を十分聞き取り、また作成後の説明や同意を得ることで、よりよい支援が出来ると思いますので、今後の更なる取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、ケース記録で情報を共有しているが、まだ介護計画の見直し等までには至っていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を受け、家族の変わりに通院や、介護保険の申請代行等に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後支援していく必要がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1週間に1回、内科医に往診にきて頂いている。ただ、本人及び家族の希望があれば、かかりつけ医に受診して頂いている。その際は、生活の情報等は、家族に提供している	協力医療機関として内科・歯科があります。入居前のかかりつけ医に継続して受診する事も可能です。また、職員から主治医への状況報告もきめ細かく行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、協力医療機関の担当医に連絡をとり、利用者が適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケアワーカーと連絡をとり、入退院をスムーズにできる様、情報交換や相談に努めていきたい		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師に相談し、チームで支援できる様、努めていきたい	見学時や入居される前に、施設の退去要件等を十分説明しています。施設の方針として、重度化の場合はホームでの生活が難しくなる為、早期に次の施設へ申し込みをして頂けるよう、家族との話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講座の受講を予定している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期時に、避難訓練は行っている	年に2回(うち1回は消防署の立会いの下)、隣接するケアハウスと合同で避難訓練を実施しています。施設が平屋建てという事もあり、災害発生時には避難しやすい環境となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いスタッフ間で意識し、注意し合っている	排泄時は、耳元でさりげなく声かけをしたり、入居者に何かお手伝いをしてもらった時には、感謝の気持ちを伝える等、個人の尊厳を大切に支援を行っています。また、職員間でも互いに注意し合うなど、常に気をつけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、出来る限り希望を聞ける様に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の職員体制にもよるが、表現された事に関して希望に沿って支援して行きたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日帰り旅行等の外出時は、気をつけるようにしているが、日々のなかでは十分できていない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが作ってしまう傾向が強いため、見直していく必要がある	入居者と職員が一緒になって調理や片付けを行い、味付けは入居者同士で味見しあって決めています。また、献立も栄養士の助言により栄養バランスが十分考慮されたものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量を記録し、確保できるようケアしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせ、無理なく行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をつけ、把握するようにしているが失敗もあり、十分ケアできているとはいえない	日々の排泄傾向や水分量を細かく確認することで、個々の排泄パターンの把握に努めています。その結果、多くの入居者がパットやオムツ等に頼らない生活を送っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	把握が難しく、十分取り組めていない面がある。今後の課題		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、新しい利用者や拒否のない人は柔軟に対応している	入浴日や時間帯を定めていますが、夕食後には、毎日全員を対象に足浴を実施するなど、安眠できるような配慮を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホットミルクを飲んでもらったり、夜間の照明に気をつけ、本人のタイミングで入眠してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からいただく眠薬表をケース記録に入れ、新しい薬や変更があった場合申し送り、利用者の様子に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々に取り組んでいる。今後の大きな課題		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会はまだまだ少ないが、できるだけ希望にそって外出を意識している	天気や職員の配置状況で可能な時には、近所へ散歩に出かけています。また、月1回日帰り旅行を実施し、ホーム内だけでの生活にならないように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の買物時は、支払いをお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時は、取り次ぐようにしているが、働きかけて手紙をかいたりしていないので、今後検討する必要がある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ち、利用者に不快感を与えないようにしている	共有のリビングはレースのカーテンで光を調整し、リビング以外の場所にもソファが設置されています。大きな窓からは家庭菜園の成長や季節の移り変わりなどが楽しめるなど、居心地よくゆったりと過ごせるような工夫や配慮が随所に見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にソファを置いて、気の合った利用者同士で話したり、利用者同士で居室を行き来し、思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物等、持ち込んでもらっている	居室内は馴染みの家具などを持ち込むことが可能です。全室洋室ですが、希望により畳を持ち込むこともできるなど、出来る限り入居者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、案内表示をし、居室は個々に分かりやすく表示している。床はフラットで、安全な生活を送れるようにしている		